

念願のフランス留学を終えて

橋本苑佳

こんにちは。私は学部4年生でフランスに半年留学した経験を踏まえ、ごく一部ではありますが留学体験談として次のこととお話しします。留学の理由・目的、生活や授業、留学を終えて、大きくこの3つを軸に進めていこうと思います。

まず、私のように「4年生で留学するなんて遅くない？」と思われるでしょうが、これにはいくつか理由があります。そもそも私は2年生の終わりまで西洋言語文化学プログラムの英語を主専攻としていましたが、その後の春のフランス短期研修参加を機に、副専攻にしていたフランス語を本格的に学ぶため仏文に移行しました。高校の頃から海外留学に興味があった私ですが、特に経済的な意味で留学は無理だと諦め、3年の夏休み前まで悶々とした思いを抱えたまま就活の準備を始めていました。しかし、短期研修以来の「留学をしてもっと文化に触れたい！フランス語を上達させて深い会話がしたい！」という収まらない意欲と共に、今までのバイトばかりで勉強に専念できない環境から逃げ出して、本格的にフランス語運用能力を身に着けたいという思いが強まり、家族の了承を得る前に留学を決意しました。期間を1年間にしなかった理由は、交換留学後そのまま卒業することができない規則があったため、就活のタイミングを考慮しての苦渋の決断でした。可能であればもう半年滞在したいと思いますし、その方が留学の成果は確実に大きいものになっていたでしょう。卒業してから後悔するのは嫌でしたし、大学生という身分をフル活用して今行くのがベストだと考えた私は、3年の後期から留学準備を開始し(資金確保の為にバイト・情報収集)、来年はようやく自分の番だ、と1年先に渡仏する仏文の仲間を見送りました。



ロカマドゥール市での観光

そしていよいよ念願の渡仏です。I-FLE のクラス分けテスト(仏作文)で B2 になったのですが、授業についていくのは正直辛かったです。授業開始 1-2 週間のうちはクラスのレベルが合わなければ変更も可能ですが、半年間しかいない留学中少しでも語学を磨きたいと思い、多少負担がかかろうとも B2 に残ろうと決め 1 学期間粘りました。渡仏前から毎日フランス語のニュースを聞いて耳を慣らしていたとはいえ、オーラルやリスニングが他の国(特にエスパニョール系)の人と比べ格段に苦手でした。そのように感じる日本人は少なくありません。しかし、意味は分からなくとも耳はすぐに慣れ、言葉は聞き取れるようになります。なので、そのことを理由にレベルを下げる必要はないと思いますが、その分授業の宿題等+α の努力が必要かもしれません。授業は 1 コマ 2 時間で、週に基本の授業 7 コマ+選択アトリエ 2 コマ=18h、そして 10 月から始まる夜間クラス(交換留学生は自動的にクラスのレベルも日中と同じ)週 2 コマ 4h、週に合計 22h という日本にいた頃とは比べ物にならないくらいの授業時間数でした。クラスで、大人数の講義のように受け身で聞いているのは私や他の奥手なアジア人くらいでした。それとは正反対に他の国の人たちは臆することなく次々と質問を投げかけます。周りのレベルが高く、時に授業の内容についていけなかった私にはできませんでしたが、自発的に質問することが成長の鍵だと思っています。授業についていくための予習復習(主に単語)に加えて宿題が出る授業も多く、全てこなすことは困難でした。ちなみに授業中に辞書を使う人は 1 人もおらず、先生の話に集中するためか、分からない単語は皆自宅で勉強していたようです。1 限の日はまだ日の出ていない朝 8 時から授業が始まり、夜間クラスは夜 8 時に終わります。日々何かしらやることが溜まっていく一方で、全て完璧にこなそうとするのは自分で自分の首を絞めるようなものです。私には、やるべきことに優先順位をつけ何かを切り捨てることも必要でした。ここで私がやっていたのは、何もしない日を作ることです。平日が窮屈だった分、土日は完全にお休みの日としてほぼ学校の勉強から離れてリフレッシュすることもありました。家でのおんびりするよりは友達と会ったり、近郊の街へ出かけるなど、自分の足で現地の新鮮な文化をたくさん取り入れ、座学では体験できないフランスに直に触れることができました。これこそ留学の醍醐味ではないでしょうか。

また、生活面に関していえば、ナントへ来る日本人を有志で支援して下さる「なんとなくナント」という団体のみなさんには何から何までお世話になりました。銀行開設や交通定期の申込みから、生活に必要な身の周りの道具の貸出など、ありとあらゆる事を助け

て頂きました。このことも留学先をナントに決めた一因で、おかげで安心して留学生活を送ることができました。メンバーには日本在住経験がある日本に詳しい方や、新潟大学に交換留学生として来ていた学生もいます。私を含め周りの日本人たちは、何かあればすぐに「なんとなくナント」に頼っていたのではないのでしょうか。



なんとなく - ナント短期研修のときのホストファミリーと一緒に

そしてもう1つ、私は海外旅行先で旅疲れからか発熱してしまい1日外出できなかったという苦い思い出があります。このとき薬を持っていなかったため友達が夜帰宅するまで待つしかありませんでした。特に泊まりがけで外出する際は何かがあるか分からないので、薬は忘れず持ち歩こうと思ったエピソードです。

そして現在、留学を終えて帰ってきた私には、言葉では簡単に語り尽くせない沢山の感情が残っています。この場で手短かにまとめることは決してできません。1つ挙げるとすれば、「多様な人々と暮らす国に生きて自分の世界に向ける視野が格段に広がった」ということでしょうか。留学で得たこととは、経験をした人でなければ分からないこともあるでしょうし、人によってそれぞれ違います。語学面に関して言えば、学期末のテストはパスしましたが、自分の実力が本当に十分に達しているとは思っていません。私にとって、学校のレベルとは見かけに過ぎず、むしろ人との会話など実践的な能力の方が重要です。とはいえ進学や就業を目指している、といった将来の目標によっては DELF などの能力試験結果も無視できませんし、基礎となる座学も大切です。私が思い残りなのは、単語勉強不足です。ボキャブラリーの貧困さは前も今も変わらず克服しなければならない課題ですが、留学中改めて気づいたのは、詰め込み過ぎでは覚えられないということです。授業資料に出

てくる知らない単語を、隅から隅まで調べ覚えようとするのは無理なのです。分からない単語のうち重要そうなものを日にいくつか、自分で文も作ってみたりしましたが、実際に使わなければすぐに忘れてしまうものです。それよりも、人との会話の中で出てきた単語や誰かに聞いて説明してもらったことは比較的定着していたと思います。なので、覚えたフランス語を駆使してフランス人と会話をする＝アウトプットが語学勉強には欠かせないと思います。

最後に、留学に興味がありながら躊躇している方がいるのであれば、是非一步踏み出して欲しいです。何かきっかけがあって自分の中に強い決心があれば、できる限りの努力をして実現させることは不可能ではありません。私は他の学生のように、家族全員から留学を後押しされていたわけではありませんし、正直無理矢理行くという感じでした。しかし、味方をしてくれる人は必ずいますし、留学において学生である恩恵は様々な面で授かることができるでしょう。留学に至る経緯は人それぞれですが、留学という海外生活を通して多くの経験をした自分にいくらか自信がついて戻って来ることができるのではないのでしょうか。

最後にこの場を借りて、今回の留学に関わってサポートしていただいた大学の国際課や学務の皆様、仏文の先生方、なんとなくナントの皆様に変更して感謝申し上げます。皆様の助けがあって今回の留学は私にとって非常に有意義で貴重なものとなりました。本当にありがとうございました。